

発達初期の理解語彙の獲得()

家庭訪問調査(3)

発達科学研究教育センター 阿部五月

発達科学研究教育センター 田中規子

発達科学研究教育センター 藤永 保

Understanding of Language in Early Development () Research by Visiting Home (3)

Center of developmental education and research ABE, Satsuki

Center of developmental education and research TANAKA, Noriko

Center of developmental education and research FUJINAGA, Tamotsu

本稿は乳幼児の言語発達過程,特にことばの理解はどのように進むのかを明らかにする目的で行われた研究の第3報である。健常な4人の乳幼児の家庭を約2年間にわたり毎月1回訪問し,生育環境,身体発達およびコミュニケーションと言語に関する項目の聞き取りと声や音への反応などの観察,絵カードを用いた選択実験を行った。これらの調査結果から,刺激に対する反応や感情表出の個人差は初期ほど小さく,大きくなるにつれて複雑・多様になり個性も見られるようになること,またコミュニケーションの欲求や方法,日常的な言語理解に関しては同じような経過で進むこと,有意味語産出に関しては初期段階で個人差が大きく表れるがその差も二語文産出の時期にはまた収束する傾向にあることなどが示唆された。また「理解」にはいくつかの次元が考えられること,表象理解には個人差が大きいこと,日常的な理解がそのまま絵カードによる表象理解テストに反映されるわけではないこと,親の養育方針の影響が大きいことも示された。

【キー・ワード】理解語彙, 家庭訪問調査, 選択課題, 表象理解

This is the third report in a series of studies to clarify the process of early development of language acquisition in particular, how do the babies learn to understand language. We conducted research by visiting the homes of 4 normal subjects once a month for about 2 years. We asked the subjects' mothers about the environment in which their babies grew up in, physical development and aspects of communication and language. We also observed the reactions to vocalizations and sounds, moreover we conducted tests using a series of picture cards.

The results suggested the followings; the individual variations in responses to the stimulus and in expression of emotions are of smaller significance in early babyhood and become more complex and varied as they get older, secondly the way and craving of communication and the

process of understanding everyday language is similar, finally as far as word production is concerned, individual variations seem to be greater at an early stage and lesser at an age of speaking a two-word sentences. We also found that there was thought to be some different spheres in understanding, secondly there were considerable differences in understanding representations, furthermore understanding in daily life did not necessarily reflect in understanding test representations using figure-card, finally parents' educational policy affected their own language development.

【 Key Words 】 Understanding words, Home visiting research method, Selection task, Understanding representations

問 題

本稿は上記の目的で行われている調査研究の一部である。4人の健常の被験児を対象として家庭訪問調査を行ってきたが、初回調査から2002年7月時点(S, Aは6月)までの結果は第1報(阿部他, 2001)および第2報(阿部他, 2003)に報告されている。今回は2002年8月(S, Aは7月)以降の調査結果をふまえ、約2年にわたる一連の家庭訪問調査について報告する。本研究は調査や実験観察の方法も試行錯誤の段階を多く出していないが、母親の記録および調査員の聞き取り・観察にもとづき、コミュニケーションと言語に関する項目の発達をおおまかに検討する。また実験観察は絵カードを用いた選択課題とし、理解がどのように進むかを解明する一助とする。さらに日常場面での理解と表象理解の特徴や差異などを明らかにし、絵カードなどの表象を用いたことばの理解の診断の可能性を検討する。

方 法

1. 調査対象

2001年9月の調査開始時点(Kのみ2001年8月)で、首都圏に住む、まだ発語の無い健常な0才児4名を対象とした。4名の性別と生年月日は以下のとおりである。また、各被験児の本論文における報告対象月齢を()内に記す。

N; 女児, 2001年6月15日生まれ(2ヶ月~24ヶ月)

K; 男児, 2001年5月18日生まれ(2ヶ月~24ヶ月)

S; 男児, 2001年4月11日生まれ(5ヶ月~24ヶ月)

A; 男児, 2001年1月13日生まれ(7ヶ月~25ヶ月)

2. 調査期間

2001年8月~2003年7年

3. 調査方法

調査員が4名の被験児宅をそれぞれ毎月1回ずつ訪問し、母親による調査用紙への記入、調査員に

よる調査用紙への記入，録音，録画の 4 つの方法による記録を取った。また各被験児ともおおむね 10 ヶ月時点より，訪問調査時に絵カード提示による語彙理解の実験観察を行った。調査に先立って提出された記録用紙や各被験児の発達状態，興味，注意のスパンなどを考慮しながら，毎回事前に提示するカードの組み合わせを決めておいた。具体的な方法と内容は阿部他（2001），阿部他（2003）に掲載されている。実験観察の方法も基本的には阿部他（2003）に記したとおりであるが，各々の被験児の課題理解および選択状況を見て，以下のものを加えた。

- ・田中ビネー知能検査法第 3 問「身体各部の指示」に用いるカード

カードをコピーして本実験用に A4 版の図版を作成し，「この男の子の目はどれですか」と聞く。同様に足，鼻，髪の毛について，順次問う。

- ・田中ビネー知能検査法のミニチュア類

帽子，飛行機，バナナ，車，犬のミニチュアと実物大のスプーン，はさみ，時計を使用した。

- ・国リ八式 S-S 法 言語発達遅滞検査(改訂第 4 版)の絵カード

絵カードのうち，色カード 4 枚(赤・青・緑・黄)，名詞句カード 12 枚(大きい・小さい × 赤い・青い・黄色い × くつ・ぼうし)，統語方略絵カード 6 枚(うさぎ・パンダ・犬が・を × うさぎ・パンダ・犬を・が 洗う)，動詞文絵カード 18 枚(お母さん・男の子・女の子 が × りんご・バナナ を × 食べる・切る・洗う)を使用した。

なお，上記の手順は実験を重ねる過程で仮に定めたものであり，毎回この手順に従っているとは限らない。実際には各被験児の性格や実験観察時の月齢や気分，体調などによりそのつど変更を行った。

結果と考察

初回調査から 2002 年 7 月時点(S, A は 6 月)までの結果は第 1 報(阿部他, 2001)および第 2 報(阿部他, 2003)に報告されているが，ここではそれらの結果も含め，約 2 年にわたる一連の家庭訪問調査について報告する。

1. 被験児の発達の概要

まずはじめに，各被験児の生育環境や身体発達，コミュニケーションと言語に関する項目を中心に発達の特徴を一人一人順に見てみる。身体発達及び言語理解に関するチェックリストや記録用紙を被験者別に月齢および項目ごとにまとめ(資料)，比較検討した。最初に観察された月齢を身体発達の項目についてまとめたものが表 1<チェックリストまとめ(身体発達)>，言語とコミュニケーションに関する項目についてまとめたものが表 2<4 人の発達状況まとめ>である。なお発達の目安は「遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表」と「新版 K 式発達検査 2001」，「KIDS 乳幼児発達スケール」を参考にした。

A. 各被験児の特徴

N について

身体発達に関しては 1 歳以降の項目のデータが少ないが，おおむね順調，というよりはむしろ 1 歳くらいまでは，発達検査の標準月齢や他児に比べても全体的に早いと言える。これまでのところ，体

表1. チェックリストまとめ(身体発達)

	N(女児)	K(男児)	S(男児)	A(男児)	遠城寺式	新版K式	KIDS
首がずわる	2.5	4.5	3	3	3~4	3~4	3
寝返り	5	8.5	3	5	5~6	5~6	7
ハンドリガード(自分の手をじっと見る)	3	3	2	5		3~4	
目で見てつかむ(リーチング)	5	5	4		5~6	5~6	5
お座り	6	7	6	7	7~8	8~9	8
ハイハイ ずりバイ	8	8	5	7		7~8	8
高バイ	8.5	9	5	9		8~9	9
つかまり立ち(立ち上がれる)	8	8	6	8	9~10	9~10	(8~10)
つたい歩き	9	8	7	9	10~11	10~11	10
「ブー」と言って唾を飛ばす	5	4	6	7			
歯がはえる	6	7	7	7			
ストローが使える	8	12	12	9	18~21		
親指と人差し指の指先で物をつまむ	11	12	8	?	7~8		8
2~3歩歩く	11	11.5	9	11	12~14	12~15	12~13
なぐり書きをする	14	11	12	13	11~12	11~15	13~14
あまりこぼさずにコップから飲む	16	18	18	20	10~11		
10メートルくらい上手に歩く	12	12.5	11	13			
あまりこぼさずにスプーンが使える			19	20			
両手に物を抱えて歩く	14	12.5	10	12			
手すりにつかまって階段を上る		11.5	16	16		18~21	16
上手投げでボールを投げる		11.5	15	13			18
その場でジャンプができる		14	22	20		21~24	22~
ボタンがけられる					36~40		

表2. 4人の発達状況のまとめ

	N	K	S	A	平均	遠城寺式	新版K式	KIDS
<感情表出>								
声を出して笑う	2	2	4	2	2.5	3~4		4
泣き方でわかる	4	5	5		4.66667			
よく笑うようになった	8	3	5		5.333333			
甘え泣き			7	11	9			
うそ泣き		9	11		10			
怒る、怒り泣き	11	11	10	11	10.75			
叱られた時、機嫌を取る			15	20	17.5			
照れ笑いをする			9					
あまり泣かなくなった		5~7		7				
話し掛けたときの反応								
目が合う	2	2			2		声の方を向く	
手足を動かす	4	3			3.5		1~2	
振り向く	5	3			4			
声を出す	4	4	5		4.333333			
喜ぶ	4	5	5		4.66667			
<声や音への反応>(観察)								
視野内の母の声のみに反応	2	4			3		呼びかけに反応	
視野内の声、音に反応	4				4		5~6	
視野外の声、音にも反応	6	6.5	6		6.16667			
歌やテレビ・ビデオへの反応								
母の歌に微笑む	2			7	4.5			
母の歌に手足をバタバタさせて喜ぶ			5	7	6			
兄妹の歌に手足をバタバタさせて喜ぶ	7			7	7			
テレビをじーっと見る	2	4	5		3.66667			
テレビの歌に合わせて声を出す	8	4		8	6.66667			
テレビの歌に合わせて体を動かす	8	4	7	8	6.75			8
テレビの歌に合わせて手をたたく	11	8		12	10.33333			
テレビに合わせて踊る	12	16	15	13	14			

発声・発語								
アー、ウー、クー	2	2			2			3
ブー	4	4	6		4.66667			
ずっと声を出している		4(ウーウー)	6(ウーウー)		5			
マ、マー	8	8	6	7	7.25	7~8	喃語	9
パ	7	8		8	7.66667	7~8	7~8	
初語	9:マンマ (ごはん) 10:マンマ (何でも)	16:チーター、 ジュチュ サッカー、 ドージョ	11:マン マ(空腹)	9:マンマ (抱っこ、眠い) 10:マンマ (ごはん)	11.25			
3語言う	11	16	11	12	12.5	14~16	15~18	20
過大般用	食べ物: マンマ;12 動物: ワンワン;13		ママ(母と 兄);17	動物:ワンワン; 12 食べ物:マンマ; 16 家族全員:パパ; 16				
分化				ニャンニャン (ねこ);23				
何かを話しているように発声	12	14	13		13			10
家族の呼称を言う:ママ	11	17	15	12	13.75			
:パパ	14	18	13('お とー')	14(兄'ニーニー も)	14.75			
肯定を「うん」と言う		16	12	20	16			
否定をことばで表現できる	22:いや		18: やーや 19:いや	16	18.66667			
二語文		22:ブーブー、 あった	19:あっ ち、いた	19:ママ、どこ?	20	21~24		22
自分の名前を表現できる	~22:なな	23:ちいちゃい		25:きと	23.3333			
言語理解								
自分の名前に反応	5	3	5	3	4			7
まんまやおっぱいに反応	7	3	8	4	5.5			
「だめ」がわかる	8	12	9	9	9.5	9~10	9~10	9
自分の名前がわかる			9	10	9.5			
「バイバイ」	10	12.5	9	11	10.625	10~11	9~10	
「いないいないばあ」	9		12	11	10.66667			
「こっちにおいで」がわかる	9	11	8	15	10.75	11~14		
「ちょうだい」	11	11	11	12	11.25	11~14	10~11	11~12
「どうぞ」	11		11	12	11.3333			
「いただきます」「ごちそうさま」	10	17	13		13.33333			
「〜取ってきて」ができる	15	16	13	17	15.25	14~16		16
「ゴミ箱にポイして」ができる	15	16	16	16	15.75	14~16		
「ありがとう」「どうも」	13(ありがとう)	17	18		16			
顔の部位が指示できる	18	17	21(鼻;17)	24(鼻;19)	20	18~21	18~21	18
身振り・模倣								
嫌だという意味表示	6	9	5	6	6.5			
発音をまねる	11:ウワウワ	11:ブーワツ (循環模倣)	6:はーい 13:アワ ワワなど	10	9.5	10~11		12
首を横に振って嫌だという意味表示	8	9	16	7	10			
電話で話すまね	11	11	13	12	11.75			
指さし(感嘆・共有)	12	13	11	12	12			指さし 行動
指さし(要求)	12	13(手さし;12)	12	13	12.5			12~15
肯定の意味でうなづく	15		12		13.5			
その他								
おもちゃに被せたハンカチを取る	9	10	7(2試行 目で)	10	9			
家族の持ち物の所有に興味を持ち 区別ができる		17		9	13			

重は大きめであるが、寝返りやハイハイ、独歩などの移動も、首すわりやお座り、つかまり立ちなど身体を支えることも標準またはそれより早くできるようになっている。

コミュニケーションと言語に関しても早く出現している項目が多い。特に「いないいないばあ」や「いただきます・ごちそうさま」、「ありがとう」などの身振りを伴う言語理解は他児よりかなり早く見られている。また初語は「マンマ」で9ヶ月、3語（マンマ、ワンワン、ママ）の出現は11ヶ月とかなり早く、言語の理解、産出ともに早いタイプのものである。5歳年長の面倒見のよい姉がおり、父親も昼間家において子どもと接する時間が長いこと、9ヶ月頃からは親戚の短大生が同居した保育園にも通っていることなど、人的刺激は多い環境である。母は育休後仕事に復帰したが、よく歌を歌ったり働きかけたりしている。特に姉の影響が大きいと思われ、姉のやることは何でも真似したり、姉の持っているものは何でも欲しがったりする。言語発達が一般的に早いということに関して、このような環境の影響は非常に大きいと思われるが、今回の被験児の中で唯一の女兒ということも関係しているであろう。

Kについて

在胎36週の早産で小さく産まれたためか、ごく初期の身体発達こそ遅れ気味であったが、ハイハイ（8・9ヶ月）の頃には標準に追いつき、独歩（11.5ヶ月）の頃には標準より早めになり、それ以降の運動発達は身体が軽いこともあって非常に早い。

本児の特徴は非常に活動的で愛想が良く、人見知りがなかったことである。生後4ヶ月からおおよそ週2回、ベビーシッター宅に預けられていたこと、その他にも両方の祖母に自宅で見てもらったりしていることが関係しているのだろう。父親がよく面倒を見ているためか、かなりのパパっ子の時期もあった。

コミュニケーションと言語の項目では、初期のテレビ・ビデオへの反応が早く見られている。両親はテレビ・ビデオは極力見せないようにしているが、絵本は早くから数多く与え、読み聞かせている。発語に関して特徴的なのは、初語が16ヶ月と他児に比べやや遅く、内容が「チーター」、「ジュチュ（ジュース）」、「サッカー」、「ドージョ（どうぞ）」とあまり一般的でないことである。また他児には見られている過大服用（過剰一般化）は見られなかった。これらのことは両親が教育熱心で、乳幼児が早く発することばの代表的なものである「マンマ」、「ワンワン」などの赤ちゃんことばは使わず、物の名前を意識して教えたこと、1歳過ぎくらいから大きな絵入りの「あいうえお表」を壁に貼り、教えたことなど関係しているかもしれない。その他、13ヶ月頃には身の回りの物を「これはテレビ」などと言って指差しながら教え、20ヶ月にはアルファベット表を壁に貼り、8文字くらい読めるようになったなどと記録されている。話し始めはゆっくり目であったが、二語文は22ヵ月、2歳台の時点ではかなりよく話すほうである。

Sについて

身体発達は一般的に早いですが、特に寝返りや独歩など初期の移動運動の早さが目立つ。コミュニケーションと言語の面も順調に発達しており、0歳後半からはさまざまな感情表現が観察されている。初語（11ヶ月）や意味語3語（11ヶ月）、二語文（19ヶ月）などは早く見られているが、発語の内容はKとは対照的である。名詞は「マンマ」、「うま（おいしい）」、「ワンワン」、「おぶ（お茶）」な

どの幼児語が多く、他は「ヨイチョ(よいしょ): 12 ヶ月」,「アッププー: 13 ヶ月」,「いたい: 17 ヶ月」,「うん: 17 ヶ月」など名詞以外のことばであり、18 ヶ月以降は「やーや(いや)」,「ないない」,「やったー」,「あった」など動詞や形容詞、感嘆詞などが圧倒的に多く見られている。6 歳年長の兄がいることもあるが、これらは日常生活の上でよく耳にすることばであり、養育者の発するものがごく自然に獲得されたものと思われる。早い時期から言語的模倣(「はい」; 6 ヶ月など)、身体的模倣(「バイバイ」; 9 ヶ月など)ともによく見られていたようである。

A について

調査開始時点で7 ヶ月であったので0 歳前半の発達の様子は詳しくはわからないが、やはり身体発達、精神発達ともに順調である。特徴的なのは過大般用が多く見られたことである。12 ヶ月時点で生き物全般および小さい子どもなどを「ワンワン」、16 ヶ月で食べ物は全て「マンマ」、家族全員「パパ」と呼んでいた(12 ヶ月で母のことを「ママ」と呼んでいるが、その後母も「パパ」になってしまったようである)。23 ヶ月で動物の名称の分化(猫を「ニャンニャン」)が始まったようである。S と同様、12 ヶ月で「ないない」,「なんでー」,(「いないいない」と言う)「ばあ」などと言っており、名詞以外のことばが早く見られる。第2子であり、兄の影響も大きいと思われるが、両親もことばに対して特別な教え方はしていない。

B. 領域別発達の概要

広範囲にわたり発達を観察、記録してきたが、ここではコミュニケーションと言語に関する項目で第2報以降、記述の見られたものについて、資料1と表2を参考にして見てみる。

<発声・発語>に関して、まず喃語を見てみる。被験児によっては欠けているデータもあるが、「アー、ウー、クー」などのいわゆるクーイングが2 ヶ月時点で見られ、「ブー」という音が4~6 ヶ月の間に、「マ、マー」や「パ」という子音を含んだ発声が6~8 ヶ月で見られている。遠城寺式発達検査表(「マ、パ、パなどの音声が出る」; 7~8 ヶ月、「タ、ダ、チャなどの音声が出る」; 8~9 ヶ月)、新版 K 式(「喃語」; 7~8 ヶ月)などと比しても、4 被験児が喃語に関して標準的な発達をしていることがわかる。また9 ヶ月頃にはどの被験児も子音を含むかなり多様な音声を産出できるようになっている。

初語については、N, S, A は3人とも「マンマ」であったが、初めて観察された月齢や意味する内容は少しずつ異なっていた。N では9 ヶ月で「ごはん」の意味に、S では11 ヶ月でお腹がすいた時に、A では9 ヶ月で抱っこしてほしい時や眠い時に使われていたようだった。その後、N は10 ヶ月頃、何に対しても「マンマ」と言うようになり、A は10 ヶ月頃、「ごはん」のことを意味して言うようになった。N では意味する範囲が広がり、A では意味する要求が異なってくるところが興味深い。小椋ら(1999)によると、日本の子どもの早期出現語彙と50%出現率を超えた月齢は以下のようになっている。早いものから順に、「マンマ」; 12 ヶ月、「ワンワン」・(「いないいない」)「パー」; 14 ヶ月、「ネンネ」・「ナイナイ」・「バイバイ」; 16 ヶ月、「ブーブー」・「クック」・「アイタ」・「はい」・「シーシー」・「パン」・「いぬ」; 17 ヶ月と続く。初語を含む初期に発せられた有意味語3語(同時期に4語の被験児有り)の内容と月齢をK以外の3人に関して見てみると、N は「マンマ」・「ワンワン」・「ママ」・「パパ」を11 ヶ月、S では「マンマ(空腹)」・「マママ(母)」・「うまー(食事の後に)」を

11 ヶ月, A は「マンマ(食べ物を見たとき)」、「ママ(母を捜すとき)」、「ワンワン(動物全部)」・(いないいないと言うと)「バー」・(「だめ!」と言うと)「なんでー」または「なーん」などの発声が 12 ヶ月で見られている。小椋らのリストの中に含まれていないことばもあるが、ほとんどは家族の呼称や食べ物、動物など身近なものや人、日常生活に関わることであった。一方, K のみ他の 3 人よりやや遅めの 16 ヶ月で、「チーター」、「ジュチュ(ジュース)」、「サッカー」、「ドージョ(何か欲しいとき)」(同時期に 4 語)という初語としてはあまり一般的でない単語が含まれている。「家族の呼称を言う」については, N は「ママ」、「パパ」がそれぞれ順に 11 ヶ月, 14 ヶ月, S は 15 ヶ月, 13 ヶ月, A は 12 ヶ月, 14 ヶ月(「ニーニー」も)であったのに対し, K は 17 ヶ月, 18 ヶ月であった。また, N では 12~13 ヶ月, S では 17 ヶ月頃, A では 12~16 ヶ月頃に観察されている過大般用が K ではまったく見られなかった。

これらのことから, K は初期の有意義語の産出の時期が他の 3 被験児に比して遅いだけでなく, 内容的にも異なっていると言えよう。すなわち, 初期の産出語彙に乳幼児が日常的に接するものや人, また経験することでない, 最初からかなり分化したことばが含まれているのが特徴的である。それ以降の 4 被験児の産出語彙を比較してみると, N は名詞と名詞以外のことば(「あっち」、「ネーネー」、「バタバタ」、「ゴー」など; 16 ヶ月)の両方を発しているのに対し, S と A では前述したように, 動詞や形容詞, 感嘆詞, 乳幼児とやり取りする際の決まりきったフレーズなど名詞以外のことばが圧倒的に多く使われている。一方 K では名詞がしばらくの期間, 圧倒的に多く発せられている。これらのことは各々の被験児の生得的な性質に加え, 兄弟の有無や出生順などの生育環境の違いも関係しているであろう。しかし前述したように, K の両親が「幼児語は使わない」、「ものの名前を意識して教える」などの特別な育児方針および教育観を持っていたことが非常に大きな影響を与えていると思われる。

しかしながらその後, 出現時期の差異は二語文の産出(K; 22 ヶ月)や「自分の名前を表現できる」(K; 23 ヶ月)頃には標準的な月齢(遠城寺式「二語文を話す」; 21~24, KIDS「2語文を言う」; 20 ヶ月)となり, 他の被験児に追いついている。また K の発語内容も 20~21 ヶ月頃までは名詞が圧倒的に多いが, 22 ヶ月頃からは「~あった」、「~ない」、「大きい・小さい」、「あれ?」など名詞以外のことばも増えている。そして「簡単なやり取りができるようになった(S; 22 ヶ月)」、「発音がはっきりしてきてわかるようになった(N; 22 ヶ月)」、「要求を身振りではなくことばでするようになった(S・A; 24 ヶ月)」、「簡単な会話が成立するようになった(K; 24 ヶ月)」などの記述に見られるように, 22~24 ヶ月頃には 4 被験児ともことばによる初歩的なコミュニケーションが成立するようになっている。

発声・発語の項目全体を大まかに見てみると, クーイングや喃語など, 初期の頃の無意味な発声の時期は個人差が小さく, 有意義語を産出し始めた頃からその時期や発語内容は子どもによりかなり異なってきており, 肯定・否定の言語表現の開始時期にも大きな差が見られた。そして二語文産出の頃から 2 歳くらいにかけてはまたその時期, 発語内容ともに差があまり見られなくなるようである。

次に<言語理解>についてだが, 2002 年 7 月時点までの詳細は第 2 報に報告してあるので, ここでは項目全体について大まかに見てみる。言語理解では, ことばに反応して決まった身振りをする項

目やことばを理解して指示に従う項目、特定のことばに反応する項目などがあり、発声・発語や身振り・模倣などに比べて主観的判断が入りやすいものや判断がしにくいものなども多く含まれている。それにも関わらず、観察された月齢の差が大きい項目は意外に少ない。具体的には「自分の名前に反応」・「バイバイ」・「ちょうだい」・「どうぞ」・「ゴミ箱にポイして」の項目については被験児間の差が特に小さく（平均月齢順に 4.0 ヶ月・10.6 ヶ月・11.3 ヶ月・11.3 ヶ月・15.8 ヶ月）、「こっちにおいて」と「いただきます・ごちそうさま」の理解に差が見られた。乳幼児にどのくらいの時期からどの程度「いけないことはいけない」という態度をとるかや、いつ頃から挨拶をさせるかなど、両親のしつけや育児態度が反映される項目もあると思われる。

2. カード提示による実験観察

4人の被験児に対し、カード提示による実験観察をそれぞれ1ヶ月に1回程度（終盤は間隔を少しあけた）の訪問時に行った。第2報以降の訪問時のそれぞれの被験児の月齢と回数は以下のとおりである。

N：14 ヶ月，15 ヶ月，16 ヶ月，17 ヶ月，18 ヶ月，19 ヶ月，22 ヶ月，24 ヶ月の計 8 回

K：15 ヶ月，16 ヶ月，17 ヶ月，18 ヶ月，19 ヶ月，20 ヶ月，22 ヶ月の計 7 回

S：15 ヶ月，16 ヶ月，17 ヶ月，18 ヶ月，19 ヶ月，20 ヶ月，24 ヶ月の計 7 回

A：18 ヶ月，19 ヶ月，20 ヶ月，22 ヶ月，23 ヶ月，24 ヶ月，25 ヶ月の計 7 回

初期の頃から課題の内容や状況は被験児により異なっていたが、特に後半はカードの難易度、枚数なども大きく異なったため、分析にあたって前回のような評定方法は用いなかった。2002年7月以前の結果は第2報に詳述してあるのでここでは前回の結果をふまえ、各被験児の実験観察時の特徴と時系列の変化の様子を概括する。

まず N についてであるが、かなり早い時期から集中して課題に取り組み、カードに対して興味を持ち、概して落ち着いて選択できた。母親や調査員の話をよく聞いており、慎重で注意深い印象を受けた。本児の大きな特徴は年長者へのソーシャル・リファレンスがよく見られたことである。課題遂行時に姉がおり、彼女のほうを気にしたり真似をしたりということもあった。どう反応していいかわからないようなときは、動きが止まり、母と調査員の顔を食い入るように見たり、確信が持てる試行ではすぐに選択するものの、自信がないときは後ろにいる母のほうを振り返って見たりする行動が観察された。時系列で見てみると、最初期の9・10ヶ月時はカードに対する反応はあまりなかった。カードを見なかったり、見ても無表情だったりした。11ヶ月頃からカードに興味を示すようになり、正しいカードを選ぶとまではいかないが、いろいろな表情を見せるようになった。このころは日常の記録によると、「マンマ・ワンワン・だめ・ママ・パパ・バナナ・ちゃちゃ・あんよ・どうぞ・ちょうだい」など、急速に理解語彙が増加した時期であった。12ヶ月時には2枚のカードの組み合わせを13試行行ったが、大人の話をよく聞いて行動を参照し、長い時間をかけて次第に課題を理解していく過程が象徴的に表れていた（阿部他，2003参照）。その後数ヶ月間は単語の意味の理解はしているようだが、課題の理解ができていないのか、正答率は安定しない状態が続く。15ヶ月時には犬のカードを見て「ワンワン」、ぞうのカードを見て「ぞー」と言う、電話のカードを見て手を耳に当て

る、靴のカードを見て玄関のほうを指差すなどはしたものの、言われたほうを選ぶということはあまりできなかった。途中、カードを重ねたり遊んでしまったりしたが、18~19ヶ月頃には課題の理解が定着したようだ。発音できる単語は大きい声で言い、即座に選択していた。このころには「正解でなかったらもう一方のほう指差す」というストラテジーも獲得しつつあるようだった。それ以降、同じカテゴリーのものを組み合わせたり動作語のカードを入れるなどかなり高度な試行も入れたが、安定して選択できるようになった。

Kは初回からコミュニケーション能力が非常に高く、調査員の働きかけによく反応していた。概してカードに興味を示し、早い時期に課題を理解しており、正答率は全体を通じてもっとも高かった。初回は10ヶ月時であったが、カードを取ったり、ペンなどでポインティングしたりと反応はさまざまであったが、この時点で課題自体の理解もある程度できているような印象であった。カードの絵と同じ種類の犬と接する機会があったためか、少なくとも「いぬ」のカードはわかっているようであった。その後、体調や気分の影響を受けたり、また月齢が進むにつれて興味の対象が広がり、両方のカードを手にとったり、カードを裏返したり、両方合わせたりなどと反応が多様化し、必ずしも正答率が上がっていくわけではない。しかし本児の場合は15~17ヶ月という早い時期に指差しが安定し、ほとんどの試行で正解を選べるようになってきている。12~13ヶ月頃には受付けなかった4枚のカードの選択もこの頃にはなんなくできるようになった。この時期の少し前から日中過ごす室内に大きな絵つきの「あいうえお表」を貼って、おもに母親がものの名前を教えていたことが影響しているのであろう。また13ヶ月頃より、「これはテレビ」などと指差ししてものの名前を教えたり、「にんじん、犬、ねこ」など実物を見せて教えたりと、母親がものの名前を意識して教えていた。このためか、日常生活でも16ヶ月頃までは文などよりは名詞の理解が進んでいたようである。前述したように、発語についても他児は初語の時期以降すぐに名詞以外のことばを多く発しているにもかかわらず、Kのみ21~22ヶ月頃まで名詞が圧倒的に優位であったことと関係していると思われる。Kにおいても自信のないものは大人の顔をうかがい、指すカードを変えるなどという行動も見られた。

Sは日常的には言語理解や発語において順調な発達が報告されていたにも関わらず、カード選択課題の成績にはそれがすぐには反映されなかった。概して落ち着いて座っていることもでき、カードにも関心を示してはいたが、課題を理解し指示に従うということは1才を過ぎてもなかなか難しかった。10ヶ月時点から実験観察を始めたが、初回は指差しはできず、言われたカードを取るという方法だったが、半分以上正解した。11~12ヶ月時にも不正解もあったがほとんどの試行で選択し、正答率も半分近くであった。14ヶ月頃からはカードをよく見てはいるが、指差したり取ったりなど選択するということが少なくなり、カードを裏返したり2枚重ねたり、顔にあてて喜んだり下に落としたりする行為が見られた。19ヶ月時には選択課題自体の正答率は30%くらいとあまり高くはなかったが、「(カードを)ちょうだい」とか「ないないして」などの言語指示には従うことができた。日常の記録によると17ヶ月頃、「ないないね」や「ちょうだい」などの意味がわかるようになっていたようだが、育児サークルに入り、友達との関わりの中で「貸して、ちょうだい、どうぞ、ありがとう」などを身振りも含めて教えた(19ヶ月)時期とかさなっている。新しい環境での経験により、ことばの意味と行動との結び付きが強化されたのかもしれない。そして20ヶ月時には再び半分くらい正解を

選択できるようになり、3枚組みや4枚組みも初めて正答した。さらに24ヶ月時には19試行中15試行において正答を選択でき、ようやく課題の理解が定着したと思われた。本児の特徴は、「手」のカードを選択させる課題遂行時にカードを選ばずに「て」と言いながら調査員の手を指したり、「母」のカードを選択させる時にカードは指さずに本物の母を見たりと、反応が実物志向的であることと、選択課題を開始すると急に発語が少なくなってしまうたり、ほとんど発声すら聞かれなくなってしまう回が多かったことであろう。本児は理解と発語の両者において名詞以外のことばが優位であり、日常生活上の家族とのコミュニケーションは順調にとれるようになっていったことや、日頃は比較的発声の見られる本児が未知の人や慣れていない人がいると無口になり、母とさえも話さなくなることなどを考え合わせると、NやKと比べ、今回の課題状況への適応がしにくかったものと考えられる。

Aは開始時にすでに1歳を過ぎていたが、特に前半は課題遂行時の環境的要因もあってか、集中度が低かった。13ヶ月時の初回はカードに興味を示さなかったため課題が行えず、14～16ヶ月では課題が理解できていないようであった。特に16ヶ月時には歯ブラシのカードを見て「シュッシュッ」、電話のカードを見て「もしもし」、犬のカードを見て「ワンワン」、葉のカードを見て「はっぱ」などとは言うが、選ぶことはできなかった。17ヶ月時に初めて言われたものを指差しで選択することができたが、4枚組みはまだ不可能だった。以降、「痛い」のカードを見て「たい」、「抱っこ」のカードを見て「だっこ」と言うなど、名詞以外のカードにも反応したが、正答率は24ヶ月時までは50%前後であった。途中、カードは選ばず、両方のカードを調査員に渡して「ありがとう」と言われるのを楽しんだり、いらぬほうを渡して好きなほうを手元に残しておくなど、反応も多様であった。理解していると思われる単語も選択しないので、24ヶ月時にはカードを1枚見せて「これなに？」と聞く方法も試みたところ、17試行中、不正解は3試行のみであった（「みかん」を「マンマ」などの総称は正解とした）。このときにはオウム返しが多く、「これなに？」や「～はどっち？」という質問に対し、調査員のことばをそのまま繰り返すという行為が見られた。25ヶ月時には前月と同じ名前を聞く方法で16試行中15回正解であった（うち6語は幼児語または本児独自のことば）。この回に行った2枚組みのカードでは14試行中11試行に正解し、4枚組みも8試行中6試行に正解でき、ようやく課題が理解でき、行動に表せるようになったと言える。Aは乳幼児期に見られがちな集中力の無さと多動性があり、日常生活上の理解や発語などの発達と課題の成績とのアンバランスを考えると、Sとはタイプは少し異なるが、やはりこのような課題状況への適応がしにくかったものと思われる。

以上、被験児の特性や環境、教育方針などによりカード選択課題に対する反応はさまざまであること、また気分や体調などにも左右されやすいこともあって、月齢が進むにつれて課題状況における見かけ上の理解が進むとは限らないことが示された。しかし一度課題の理解が完全に定着すると、その後は年齢による多動性の減少も加わって安定した状況で課題が遂行でき、語彙の理解が課題の成績に反映されることも示唆された。また「理解」にはいくつかの次元が考えられ、単一の尺度では測れないこと、「課題の理解」が予想以上に難しい被験児もあり、低年齢時には日常場面における理解がそのまま課題の成績に反映されるわけではないこともわかった。

まとめと今後の課題

2年間にわたる訪問調査と実験観察により得られた結果から、乳幼児の発達初期におけるコミュニケーション行動や言語理解、発声・発語の発達についてまとめ、また今後の課題を検討する。

乳児期前半の養育者とのコミュニケーションや感情表出の発達については第2報で記述したが、後半になるとコミュニケーションパターンや感情表出においてかなりの個人差が見られるようになる。乳児期前半に行った実験観察では、話し掛けに対する反応や声や音への反応では、その内容も時期もほとんど同じような経過をたどることが示唆された。すなわち2ヶ月時点では「目が合う」のみだったのが次第に手足を動かしたり振り向いたり、そして4~5ヶ月には声を出したり喜んだりするようになる。また反応を示す音の種類や領域も月齢とともに広がっていく。これらは身体や運動機能の発達や感覚器官の発達と深く関係していると思われる。しかし乳児期後半になると特に感情表出やテレビなどへの反応様式にバラエティーが見られ、被験児の個性により異なる表出が見られるようになる。身振り・模倣、言語理解については今回の調査では、日常の記録においては被験児による差はあまり見られなかった。大まかに言えば「いやだ」という意志表示が6ヶ月前後で見られ、身体的模倣、言語的模倣ともに1歳前後からさかんに見られるようになる。指差しについては感嘆・共有の指差しがやや早く見られるもの、要求の指差しとともに1歳前後で始まり、その後一定期間頻繁に見られた。これらのことは人に対する興味や自分の感情、意思を養育者に伝達したいというコミュニケーションの欲求は、健全な乳児においては同じような経過で発達することを示唆している。言語理解に関して質問項目の統制がとれていなかったにも関わらず、時期的な個人差の大きい項目は少なかった。すなわち最初は自分の名前や「マンマ」などのよく耳にする基本的な単語に反応し、次に大人の表情を伴ってではあるが、「禁止」がわかるようになる。また1歳前くらいに「バイバイ」や「こっちおいで」、「ちょうだい」など身振りの伴うことばの理解ができるようになり、18ヶ月くらいまでには「～取って来て」や「ゴミ箱に捨てて来て」などの言語指示にも従えるようになり、顔の部位もいくつか指せるようになる。「いただきます」・「ごちそうさま」・「ありがとう」などのあいさつは親の養育態度や働きかけなどが反映されるためか、見られる月齢が被験児によって異なっていた。一方、実験観察場面の「理解」は日常生活上の理解と異なり、被験児により大きな差が見られた。「理解」にはいくつかの次元が考えられること、現象的な表象理解には個人差が大きいこと（認知的な個人差というよりは、興味・注意などむしろ情動面での個人差が大きいのかもしれない）、課題状況の適応や課題自体の理解が難しい被験児もあり、年令が低い場合には日常場面における理解がそのまま課題の成績に反映されるわけではないこともわかった。しかし一度課題の理解が完全に定着すると安定した状況で課題が遂行でき、語彙の理解が成績に反映されることも示唆された。

発声・発語については、クーイングや喃語などの初期の無意味な発声の時期は、その量は被験児により差が見られたものの、内容的には同じようなものであった。その後、初語の開始時期には大きな差が見られ、発語の内容も子どもにより異なっていた。しかし二語文産出時期には大きな差は見られなかった。ことばに関しては理解・産出とともに、子どもの個性や能力と同時に親の養育の姿勢や教育方針が大きな影響を与えていることも示された。

今回は初期の言語発達全般を調べるための大まかな調査であったが、今後は調査項目を再検討し、細かく調べて行く必要がある。また被験児間で母親や調査員の判断が異ならないよう、調査用紙やチェックリストの項目の表現をさらに整えていくことも大切である。また選択課題については実験場面の環境や条件設定を工夫し、「理解」以外の諸要因を最大限排除することが大きな課題である。また低年齢児でも「課題の理解」が容易となるような方法を考えてみたい。

上記のような点をふまえ、現在は健常な被験児に加え、言語発達遅滞を伴うダウン症の幼児についても家庭訪問調査を進めている。健常な乳幼児の言語発達と比較することにより、遅滞の起こる様相や時期などを明らかにしていく。そしてダウン症特有の他と判別できるような遅滞があるのかを調べる。その際には被験児の表象理解の程度に応じ、選択課題において実物やミニチュア、写真や絵画などを用い、実用性、機能性、操作可能性、シンボル性などの性質がどの時期にどのように重視されるのかについても調べてみる。また、本調査とは別に、健常乳幼児の母親による出生直後からの反応や表出、コミュニケーションと言語に関する記録の収集も現在行っている。

引用・参考文献

- 阿部五月・藤永保・田中規子. (2001). 発達初期の理解語彙の獲得 (): 家庭訪問調査(1). *発達研究*, 16, 15 - 31.
- 阿部五月・田中規子・藤永保. (2003). 発達初期の理解語彙の獲得 (): 家庭訪問調査(2). *発達研究*, 17, 147 - 167.
- 遠城寺宗徳・合屋長英他. (1977). *遠城寺式乳幼児分析的発達検査表*. 東京 : 慶応通信.
- 秦野悦子・やまだようこ(編). (1998). *コミュニケーションという謎*. 東京 : ミネルヴァ書房.
- 秦野悦子(編). (2001). *ことばの発達入門*. 東京 : 大修館書店.
- 生澤雅夫他. (2001). *新版 K 式発達検査 2001*. 京都 : 京都国際社会福祉センター.
- 林安紀子. (1999). 声の知覚の発達. 桐谷滋(編), *ことばの獲得* (pp.37 - 70). 京都:ミネルヴァ書房.
- 小林晴美・佐々木正人(編). (1997). *子どもたちの言語獲得*. 東京 : 大修館書店.
- 小寺富子・倉井成子・佐竹恒夫(編). (1998). *国リハ式 <S-S法> 言語発達遅滞検査(改訂第4版)*. 東京 : 株式会社エスコアール.
- 三宅和夫他. (1989). *KIDS(キッズ) 乳幼児発達スケール*. 東京 : (財)発達科学研究教育センター.
- 荻野美佐子・小林晴美. (1999). 語彙獲得の初期発達. 桐谷滋(編), *ことばの獲得* (pp.71 - 116). 京都 : ミネルヴァ書房.
- 小椋たみ子. (1999). 語彙獲得の日米比較. 桐谷滋(編), *ことばの獲得* (pp.143・194). 京都 : ミネルヴァ書房.
- 小椋たみ子・山下由紀恵・村瀬俊樹. (1998). 初期言語発達インベントリーの妥当性及び語彙チェックリストの検討. *神戸大学発達科学部研究紀要*, 5, 261 - 276.
- 田中規子・藤永保・阿部五月. (2001). 発達初期の理解語彙の獲得 (): 質問紙調査 (1). *発達研究*, 16, 1 - 14.

田中規子・阿部五月・藤永保. (2003). 発達初期の理解語彙の獲得 (): 質問紙調査 (2). *発達研究*, 17, 129 - 145.

財団法人田中教育研究所(編). (1987). *田中ビネー知能検査法*. 東京 : 田研出版.

< 謝 辞 >

本研究の実施にあたり, ご協力頂きました母子の皆様, ならびに調査およびビデオ撮影を分担して頂きました福田佳寿子さん, 石井陽子さんに厚く御礼申し上げます。

資料1

N(女兒)の発達状況 1/3

	身体発達	感情的発声(泣き方・笑い方・怒り方)	話し掛けた時の反応
2ヶ月	首がすわった(2.5ヶ月)。	人の顔を見て笑うようになった。泣き方はまだ分化していない。	目を合わせ、ウーと声を出す。
3ヶ月	手と手を合わせるようになった。ハンドリガード。	声を出して笑うようになった。眠い、空腹、構ってほしい等、泣き方で何となくわかる。	目をそらすことがある。
4ヶ月	物をつかもうとする。抱っこしていてもよく動くようになった。	母の姿が見えなくなると叫んだり泣いたりする。	手足を動かしたり、微笑み、声を出したりする。
5ヶ月	環返りができるようになった。何にでも手を伸ばすようになった。	状況とあわせて、空腹・寂しい等が泣き方によりわかるようになった。	自分の前に「呼んだ？」という、感じて反応する。
6ヶ月	お座りが上手になった。歯が生えてきた。		名前を呼ぶと、呼んだ方を見るようになった。
7ヶ月	後方にずりバイができるようになった。	ママを求めて泣くことが多い。4歳の姉の歌や踊りにキョッキョッと笑う。	自分の名前を呼ばれると振り返り、笑う。
8ヶ月	高バイで前進する。座ったままピョンピョンと動く。つかまり立ちができるようになった。	母の姿が見えなくなると泣く。よく笑うようになった気がする。	名前を呼ばれると振り向いたり顔をあげたりする。
9ヶ月	伝い歩きができるようになった。	母がいなくなると泣く。	名前を呼ばれると振り向き、笑う。
10ヶ月	伝い歩き、ハイハイが早くなった。		
11ヶ月	2-3歩歩く。親指と人差し指の指先で物をつまむ。	両手をテーブルにドンとついて怒ることがある。怒り泣きをする。	
12ヶ月	10メートルくらい上手に歩く。	姉におもちゃを取られてしまった時等、両手をついて怒る。「もう、と言いながらぶとうとする。	
13ヶ月	階段を上れる。ボールを投げるのが好き。	姉とのトラブルでは、母に対し甘えた感じで泣く。姉に対しては怒ったり、嬉しがったりと結構感情がこもる。空腹や自分の思い通りにならない時等、泣きながらじたばたと大騒ぎする。	
14ヶ月	なぐり書きをする。両手に物を抱えて歩く。	自分の思い通りにならないと、身体全体で怒りを爆発。床に寝てゴロゴロしたり、怒り方が激しい。	
15ヶ月	小さいシールを指先でつまむ。		
16ヶ月	あまりこぼさずにコップから飲む。		
17ヶ月		相変わらず姉関係のトラブルが多い。「私もしたいのにやらせてもらえない。お姉ちゃんが悪いのよー」という感じで母に訴えてくる。	
18ヶ月		「いやー、いやー」と言って泣く。怒る。何を言っても「いやー」。「もうっ」と言って寝そべて怒る。物を投げたりたいたりなめたりするが、放っておくと一人で立ち直る。	
19ヶ月			
22ヶ月		細かいことにこだわるようになり、スーパーで気に入った銘柄のジュースを買ってくれるまでずーっとその前に立っている。姉の邪魔をしては怒られ、泣いて母に言いつけに来る。	
24ヶ月			

N(女児)の発達状況2/3

	声や音への反応(調査による種類)/おおむね1歳以降は単語カード	歌やテレビ、ビデオへの反応	発声・発語・話し方
2ヶ月	視野内の母親の声には反応して表情をやわらげるが、他の人の声、視野外の音には反応しない。	母の歌には微笑む。番組に関わらず、テレビをじっと見ていることがある。	アー、ウー、ウォー、クアー、オー、エー、アエー。
3ヶ月	視野内の母の声や音には反応するが、他人の声、視野外の音には反応しない。	テレビコマースシャルがかかると顔を目を向ける。	アー、オー、クオー、ウー、フアー。
4ヶ月	視野内の声や音にはよく反応するが、視野外の声や音には時々反応するのみ。(何かに気を取られている時はダメ)	テレビコマースシャルや子供向けの歌がかかると顔を目を向ける。	アー、クワー、ウォー、ウワー、アーアー、プー、プーワー。
5ヶ月	視野内外に関わらず、ほとんどの声や音に反応するが、視野外からの他人の声には反応せず。	聞きなれた音楽やテレビコマースシャルがかかると顔を目を向ける。	アー、オー、ウー、クー、アーアー、ウーウー、ニン。
6ヶ月		テレビコマースシャルや幼児番組がかかると顔を目を向ける。	アー、ウー、クー、ン、アーアー、ウーウ、プー。
7ヶ月	視野外の声や音にも振り返る。自分の名前を呼ばれると嬉しそう。他の名前には反応するが笑わない気がする。	姉が歌う歌に手足をバタバタさせて喜ぶ。	ウー、アウー、エウー、パーパー、パーパー、エブー。
8ヶ月	視野内に聞かずに、声や音によく反応する。姉の名前にも振り向く。	幼児向けのテレビ等に合わせて声を出したり身体を動かしたりする。	アー、オー、クー、アーアー、ウーウー、マー、マー。
9ヶ月	よく反応するが、おもちゃに熱中している時はダメ。他の子の名前がわかるよう?単語カードはまだあまりカードを見ず、興味もなさそう。	どんな曲にも合わせて身体を動かしたり、「オーオー」等と声を出したりする。	アーアー、バババ、チェェチェェ、マンマンマン、マンマ。
10ヶ月	(以降、単語カード) カードを見せても、見てはいるが、ぼーっとしてあまり反応無し。		アーアー、ウーバ、ウウウウ、ディティ、マンマン。ご飯の時「マンマ」と言う。
11ヶ月	正しいカードを選ぶまではいけませんが、カードに興味を示し、表情も出てきた。いぬ(ワンワン)はわかっていそう。	音楽や体操に合わせて身体を動かしたり声を出したり手をたたいたりする。	ウーウー、マンマンマン、マンマ、ワンワン(ウウウウ)、ママ、ババ(はきはきはは14ヶ月)。
12ヶ月	カードは選べない時もあるが、いぬ(ワンワン)、ごはん(マンマ)、ババ、ママはわかっていそう。好きな絵を選んでるようでもある。	幼児番組を朝30分くらい見る。リズムに合わせて踊るのが好き。	パーパーパー。独り言を言っているような時がある。食べ物は何でも「マンマ」と言う。ババのイの音を「バイ」。物を選ぶときなどに「ハイ」。
13ヶ月	必ずしも正解できるわけではないが、だいたい理解しているよう。以前からだが、かなり長い時間じっとして集中している。	「ちびっこまん体操」が好きで、テレビと一緒に踊る。	動物はみな「ワンワン」。食事中に「マンマ」と言う時はたいがいお茶を欲しがっているよう。寝る状況で「ねねね」。「もっとちょうだい」という感じで「ンツツツツ」と催促する。意味のわからないことをよくしゃべっている。
14ヶ月	理解はしていそうだが、カードを重ねたり、遊んだりあまり正解は選べなかった。	「さくら」のテーマソング、保育士が歌う童謡に合わせて身体を動かす。テープや母が歌う「犬のおまわりさん、アイアイ、ぞうさん」と一緒に声を出したり身体を動かしたりする。	ハ、バが上手に言えるようになってきた。食べ物もみな「マンマ」。動物はみな「ワンワン」。「ジュユ(ジュース)」と言ったような気がする。よくしゃべるが、何を言っているかわからない。父のことを「ぱぱり」と「ババ」と呼ぶ。
15ヶ月	犬のカードを見て「ワンワン」と言う。電話のカードを見て手を目に当てる。ぞうのカードを見て「ぞー」と言う。靴のカードを見て玄関の方を指さすなどはするもの。言われた方を指さすといことはまだわからないよう。カードには興味をもち、「もっと見せて」というそぶり。(24問中6問正解?)	「お母さんといっしょ」のテレビやCDに合わせて身体を動かす。	母が歌うと、部分的に一緒に歌が歌えるようになった。アイアイ、ぞうさん「ぞー」。「かー(パオーのもの)」、犬のおまわりさん「ワンワン...」にゃんにゃん...「(わからない)で首を振る、かえるのうたなど。
16ヶ月	落ち着いてじっくりと取り組み、正解率も今まで一番良かった。次のカードが出てくるのを楽しみにしていたよう。かなりわかるようになってきた感じがする。(21問中11問正解?)絵カードの指示にはあまり興味を示さなかったが、ミニチュアには興味を示し、スプーン(実物)は口に持っている、バナナ(房)は一つずつ取るうとした。車は「プープー」と言いながら動かし、ミニチュアの帽子は放り出す。	特定の歌の特定のところで決まった振りをする。「ちびっこまん体操」がわかるようになってきた。「犬のおまわりさん」、「アイアイ」などを部分的に母と一緒に歌う。	新たに言えるようになったことば:ばっば(葉)、あっちー(お風呂で)、ちやちや(お茶)、くっく、ねーねー(姉のことか呼びかけか不明だが、姉のことはねーねーとわかってはいるよう)、にゃんにゃん、プープー、あっち、バタバタ、「いち、に、さん...」と言うと最後に「しゅー」と言う。要求があるときに「ママ」と言って泣いたりする。単語の語尾を言うようになった。「行くよ」と言う。「くっく、ゴー」と言う。まるで会話をしているようなトーンで発声する。
17ヶ月	前回はよくできていたので、今回はカテゴリーをそろえたりと少し高度にした。カードを用意していること、以前やったことを覚えているのが喜んでいる様子で、また次に出てくるカードを楽しみにしているようでもありやる気は感じられたが、選択するということはあまりできなかった。組み合わせが難しすぎたのかも知れない。「ババ」だけはよく分かっているようで、出てくると喜んでた。また選べないものに自ら言うこともあった(てで)。ミニチュアの選択もあまりできなかった。		新たに言えるようになったことば:チー(おしっこ)、コココ(鳥全般)、カ(カラス)、ここ(ここにすること)、あっちー(またち(お風呂や食べ物)が熱いことまたはあちらのこと)、やいや、ないない(片付けのとき)、てて(手)、チェンチェー(保育園で先生のこ)、ババははっきりと認識して発しているが、「ママ」は多義的に使うよう(要求があるときなど)。
18ヶ月	これまでの中で一番正解できた。課題の理解が進んだようだ(以前は人の顔を参照することが多かった)。自信があるときは大きい声で言、さっと取る。カードを見て「プ(コップ)」、「ビー(プリン)」、「にゃん(ねこ)」、「とと(さかな)」、「こっこ(はと)」、「マママ(ヨーグルト)」、「ププー(車)」、「めめ(目)」、「はっぱ(葉)などと言っていた。ミニチュアのバナナを食べるまね、車を「プープー」、帽子を姉にかぶせる、犬を見て「ワンワン」と言う。	「アイアイ」「犬のおまわりさん」「おかあさんといっしょ」等に合わせた一緒に歌う。	新たに言えるようになったことば:きれいな(クリスマスツリーや花を指して)、プリン(まね?)、グロップ)、めめ(目)、あいちゅ(何か食べたとき)、ぼじろう(しまじろう)、ママ(はっきりと言うようになった)、「いただきます、ごちそうさま、いただきます、ごちそうさま、いただきます、いただきます」と教えるのが少しわかるようになってきた。
19ヶ月	同じカテゴリーのものを組み合わせたり、動作語などかなり高度なものも入れたが、用意していた28試行のうち4試行くらいはできなかつたり曖昧だったのみで、他ははっきりと指差しをして選択できた。2枚のカードのうち言われた方を選択するという課題が完全に理解できているようだった。実物でも選択させてみたが、言う前に触れない方を触ってしまうこともあった。「どっち?」と聞くこと指差しで選択できた。	「はとばっば」を歌う。	新たに言えるようになったことば:保育園の友達の名前を何人か言う「はるき」「みゆ」など。教え歌を「いち、に、さん...」と教えることとところどころ言い、最後の「ポッポーのポ」も歌う。
22ヶ月	3ヶ月あいたにもかかわらず、課題自体は覚えているようで、やる気を見せ最後まで集中してできた。2枚組16試行、3枚組8試行、4枚組3試行合計30試行のうち5試行できなかったのみ(はっきりしないものも含む)。2枚組では不正解は2試行のみ。答えに自信が無いときは後ろに座っている母の方を振り返って見ている。	「おつかいあきさん」、「いいいいいいばあ」を見て、体操など同じことをしようとする。	いろいろと言うが、発音がはっきりしてきてわかるようになってきた。「ななの!、ななでーす。(わかった!)、な-に?、はるきママ(保育園の友達の名)」、肯定:首を縦に振る。「うん」と言う。否定:泣く、首を横に振る。「いや」と言う。「うん」はまだ)。
24ヶ月	これまで使用のカード2組・16試行)の普通の単語は「卵、からす・はと(両方コココと言っている)以外はずべてわかる。大きい・小さい、高い・低いはわかるが、数(1つ・2つ)と色(黄色はわかる)はわからないようであった。色と大きさの組み合わせなどの複合課題は困難。	「かえるのうた」	いろいろなことばを話す。「もういいかい」、「本を持ってきて」「よんでー」、「保育園で誰と遊ぶの?」に対し、「せいちゃん」。色は「きいろ」だけ。

N(女兒)の発達状況3/3

	言葉理解	身振り・指差し・模倣	その他
2ヶ月			父に抱っこされ、大泣き。
3ヶ月			ブレイジムで遊ぶようになった。近くで母が姉を怒ると泣く。
4ヶ月			微笑みかけると、他人でもニコリするようになった。
5ヶ月			プーと言って唾を飛ばす動作をするようになった。
6ヶ月		嫌な飲み物に対し、「いやだ-」という感じで身をよじる。	
7ヶ月	「マンマ」や「あっぱい」という言葉に嬉しそうな顔をすする。「おいで」と言うと手を伸ばし身を乗り出す。		他の子どもに興味を示し、「あそぼ」という感じで手を伸ばす。
8ヶ月	「だ-め」と言うとニヤッと笑う。	顔を横に振り、拒絶する。テーブルをたいたいで食べ物を催促する。	ストローを使って飲んだ。
9ヶ月	「だめ、マンマ、いないいないばあ」がわかる。「こっちにおいで」と言うとハイハイで来る。	「いないいない」で顔を隠し、「ばあ」で出す。	コップで飲めるようになった。
10ヶ月	ハイハイが少しできるようになった。「いただきます、ごちそうさま」に合わせて頭を下げる。	保育園で保育士が白衣を着ると近づいて行く。(食事の用意)	保育園には2-3週間で慣れた(泣かなくなった)。
11ヶ月	「マンマ、ワンワン、だめ、ママ、パパ、バナナ、ちゃちゃ、あんよ、どうぞ」がわかる。「ちょうだい」と言うと差し出す。	アーア、ウウウワなど発音のまねをする。受話器で話す真似をする。	手をたたくと言が出るようになった。担任の先生を見つけたと手を伸ばし、行きたそうなおそぶり。
12ヶ月	「もしもし」と言うと受話器を首の後ろに持っていき、「おいしい人」と言うと手を挙げる。「いただきます、ごちそうさま」に合わせて手を合わせ、頭を下げる。「アンヨ」がわかる。	早く食べたい時、もういらぬ時等、手を合わせる。真似して手をたたく。	「ちょうだい」と「ありがとう」を教えた。
13ヶ月	「ありがとう」と言うと首を縦に振る。「あふないよ-」と言うと止まる。「ばんざーい」と言うと両手をあげる。	何かを見つけた時(叙述)、「ボタンを押ししたい」、「あれ、見る！」(要求)等という感じで指さしをする。眠くなるとおんぶ紐を持ってくる。	姉がしていること、してもらっていることを、自分もしたいという感じでついてまわったりする。「いないいないばあ」の絵本が好き。他の子どもが持っているおもちゃや本などを取りたがる。
14ヶ月	「はい」と言うと手をあげる。「チュー」と言うと口を尖らせる。「おつむてんでん」ができる。	姉のまねをして、本を持ち、読んでいるように何かしゃべっている。エレベーターのボタンを押したくて、母の指をそちらのほうへ持って行く。	他の子がいるとしーっと見て様子を見ている。近づいていたりするが、相手が近づくと逃げてしまう。「ノンナン」の絵本が好き。
15ヶ月	「ごみ箱にポイして」、「-取って来て」などの簡単な用事ができる。「くっく持ってきて」と言うと靴を持ってきたりする。朝、保育園へ「行こう！」などと母が言うと、「ゴー！」と言って玄関のほうに歩いていく。	ベランダに出たいとき、「出して-」という感じでガラスをたたく。肯定のときに首を縦に振る。	他の子のまねをしようとする。ジュースとお茶が一緒になってきたようなので、お茶は「ちゃちゃ」だと教えた。
16ヶ月	保育園で「くっく、ないないしてください」と言うと、一応靴を自分の下駄箱に入れる。「くっくはくからえんとだよ」と言うとする。	語尾をまねするようになった。行きたい方を指差す。ベランダに出たいとき、玄関から靴を持ってくる。じゃんけんをする。「ポン」のところで手を出す。フォークでお団子が上手に刺せなくて、姉に「刺して」という感じで「ン、ン、エー」とフォークを差し出していた。	他の子どもの顔をのぞきに行く。他の子を指差して「ソソソ」と言う。自分のおもちゃを取られそうになると「あっち、あっち」と言う。たぶん「あっちに行つてよ、あっちに別のおもちゃがあるでしょ」という感じ。姉の持っているものを取りたがりたり、してることがあったりする。
17ヶ月		手招きを姉に向かってやっていた。10ヶ月頃から首を横に振って否定を表していたが動作が大きくなった。しかしそれが肯定を表していることもある。姉の模倣は相変わらずよくする。	他の子のまねをしようとする。
18ヶ月	「会話していてわかってるんだな」と感じることもある。	「せっせっせーのよいよいよい」、「あっちむいてホイ」のまね。ことばのまねもよくするが、語尾だけのもの。	保育園で型はめのおもちゃが好き。「読んで-」という感じで本を母のところに持ってくる。少し黙って聞いているようになったが、すぐに飽きてしまい、途中でボタンと閉じてしまうことも多い。姉と仲良く遊ぶ。
19ヶ月		「いとまき」の振りが少しできる。	姉が映っている保育園でのお楽しみ会のホームビデオが好きで、ジューと見たり一緒に踊ったりする。1歳半健診で6つの絵が描かれたカードは簡単に選択できた。
22ヶ月		「ちゃちゃ、ちょうだい」と言いながら両手を合わせる。	他の子が泣いていると、そばによって「いいいいいい」という感じで頭をなでてあげたりする。母や調査員の問いにタイミングよく適切に答えられるようになった。
24ヶ月			

